

公益財団法人 トヨタ財団 2016 年度イニシアティブプログラム助成事業

地域でつながるワカモノ×NPO インターンシッププログラム 2016
活動報告書

ワカモノ。

NPO café





前よりちょっと、
素敵な自分に。



自分の中の世界が広がって
ドキドキする瞬間。

憧れの世界へ足を踏み込んだとき。

自分を貫き、突き進んでいる
カッコいい大人と出会えたとき。

インターン先の方から団体の
一員として接してもらったとき。

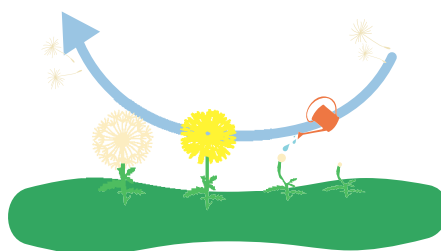
ふと、今までのインターンの
日々を振り返ると、「前よりちょっと、
素敵な自分に」なっていることに
気づくはず。

本書は、地域で活躍する
NPO・市民活動団体と
NPOでのインターンを通じて
成長したワカモノのことが
分かる本です。

ワカモノ。

事業目的・事業概要 4

プログラムの流れ 6



サポートメンバーによる座談会 8

1年間、ワカモノ3期生を支えた事務局サポートメンバーの想い

16人のストーリー。 11

竹島 ひかり — “生き方”が素敵な方々や、“国際人”と出会えました

池田 実穂 — 自分の可能性が広がる、出会いと喜びの日々

榊谷 美月 — 視野が広がった、中学生とのかかわり

高橋 翠紗 — 自らチャレンジ！出かけたことで広がる、わたしの景色

義輪 愛香 — 映像全体の見方が変わった。夢を持っている人はぜひ参加して

青木 亮平 — 考え、実践することを通して得た視点

于 宏宇 — Face to face で得た信頼関係！日中の架け橋となることを目指して！

尾上 稀一 — 自分らしさを出していける自分へ

富田 真帆 — 自分を知る場！対話の中で得られた気づき！TPAKでインターンして！

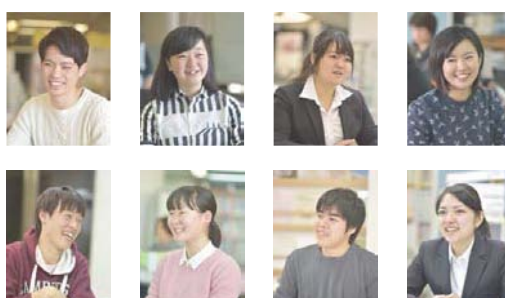
宇佐美 乃理 — 挑戦したことに意義がある！〜できるチャンスを活かして！



16人のストーリー。

「素敵な人たちに会えた」、「視野が広がった」、「「なりたい自分」ができた」、「忘るる大仕事を知った」、「地域への愛着が増した」

NPO インターンを通じて、成長したワカモノ16人のストーリーをご覧ください。





北村 萌
― 自然と巻き込まれている、そんなおもしろいひとになりたい

藤澤 真雄
― 「最後までやりきる」ことを心に誓って

高田 莉子
― 芯を通して考える機会を得て

近藤 大翔
― まず経験してみよう！と思うように

江端 佐知子
― 正面から本気でぶつかる事で得た地域との繋がり

今関 恭平
― 巻き込む力を活かして、生まれ故郷を盛り上げたい

成果発表会 44



ワカモノ×NPOは面白い！ 46

ワカモノ×NPOは面白い！

ワカモノ×NPOが面白い理由



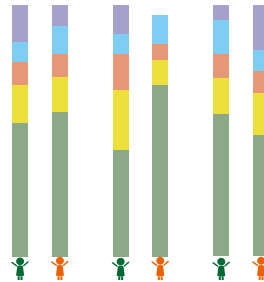
受入団体の紹介 50

活動報告書に寄せて 52

活動報告書に寄せて

NPOとワカモノのインターンシップ事業に向けて

先輩ワカモノのその後 54



42 40 38 36 34 32

※本書に掲載されている情報は2017年3月31日時点のものです。

WAKAMONO × NPO INTERNSHIP PROGRAM

事業目的

社会的問題や地域課題の解決を進める人材を育成します。

本プログラムは、ワカモノが社会貢献活動ができるだけ早い時期に体験し、市民としての役割を認識すると共に、積極的に社会貢献活動に取り組む市民を育成することを目的に左記の3点を柱に実施します。

Ⅰ 市民活動を担う人材の育成

将来、社会的問題や地域課題の解決を進めるボランティア活動、市民活動、NPO活動などの公益的な市民活動を担う人材が育成されること

- ・ 市民活動に積極的に参加するよう、これからの社会を担う社会人を育成します。
- ・ 企業とは違う非営利セクターの現状に目を向けることで視野を広げます。

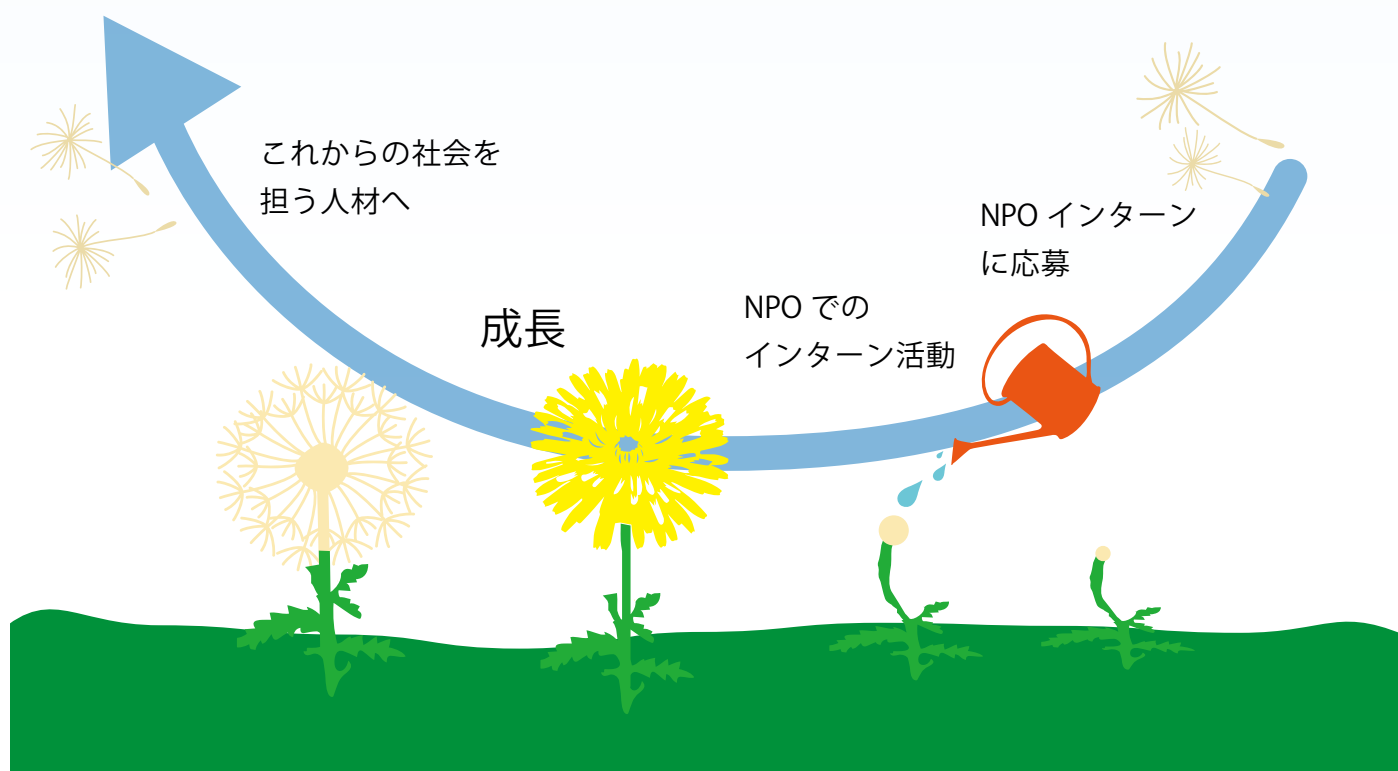
Ⅱ NPO・市民活動団体の組織基盤の強化

NPO活動、市民活動、ボランティア活動などの公益的な市民活動における組織基盤の強化が進むこと

- ・ NPO等の自立化を支援します
- ・ NPO等のマネジメント能力を高め、ボランティアコーディネーション力の向上を進めます。

Ⅲ 他地区への展開

- 本プログラムを他地区におけるNPO等の中間支援組織での展開に活かすこと
- ・ 他地区でのプログラム実施の参考資料として、プログラム実施報告書を作成します。



事業概要

ワカモノ（※1）を募集し、約7ヶ月長期的に責任を持ってNPO・市民活動団体にインターン生として活動に参加するインターンシッププログラム（※2）です。本年度で3年目の実施となります。

プログラムには2つ特徴があります。1つ目は、ワカモノ及び参加団体（ワカモノを受け入れるNPO・市民活動団体）に対して200時間を上限に奨励金を助成します。

ワカモノとNPOをつなぐためには、まず受入NPO側でコーディネートを行う人材が必要です。インターン受け入れにより、必要なコーディネーターが育成されることで組織基盤の強化が期待できますが、受け入れに要した団体負担の対価として、ワカモノへの活動報奨金と同額を受入NPOへ助成します。

2つ目の特徴として、高校生を参加対象に含めています。ワカモノが将来や進路について考える時期に市民活動を「経験する」と「経験しない」では後々の選択の幅に大きな違いがあり、社会人になった後の市民活動への関心や地域づくりにも大きく影響します。そこで、将来への種まきは早い時期に行う必要があると考え、本プログラムでは高校生をインターン参加対象に含めています。

※1 ここでいう「ワカモノ」とは、専門学生・大学生・大学院生で、概ね30歳未満を指します。

※2 インターンとは、学生が一定期間企業などの中で研修生として働き、自分の将来に関連のある就業体験を行える仕組みです。

プログラムの特徴



高校生コース

80~100h

(定例会 + 事前研修・事後研修等の時間を含む)



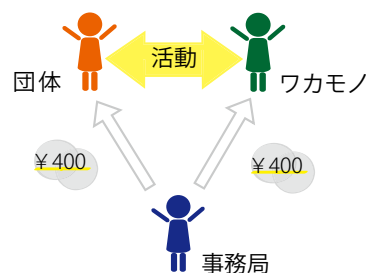
ワカモノコース

120~200h

(定例会等の時間を含む)



今年度より高校生コースを新設いたしました。活動時間を短縮したことで、活動と学業との調整がしやすくなりました。



活動に参加するワカモノと参加団体の双方に、活動1時間あたり400円の助成を行います。

NPOとは？

NPOとは「Non-Profit Organization」の略称で、日本語では非営利組織と訳します。株式会社等の「営利」を目的とする組織とは異なり、営利を目的としない組織です。社会の多様化したニーズに応え、社会や地域の課題解決に向け、様々な分野（文化、環境、教育、まちづくり、国際、福祉等）で活動をしています。また、NPOの中でも「特定非営利活動促進法（NPO法）」に基づき認証された「NPO法人」は、51,508法人あります。（※1）

—— 法律からみた NPO

株式会社等が定める「会社法」は2006年に施行された際に一本化され、そのルーツは商法にあり明治まで遡ります。対して、NPO法は1998年に施行された若い法律です。そう考えると、NPO法人というスタイルはまだ発展途上であり、様々な可能性を秘めているとも言えるのではないのでしょうか。

—— 地域の担い手として

NPOは「産学官民」の「民」の部分を担当する存在として地域でも注目されています。最近では「協働」という新しい形のパートナーシップで、NPOをはじめ、企業、学校、行政等と連携する事例が増えています。また、有事（災害など）の際に力を発揮するボランティアをコーディネーションする役割も地域のNPOには求められています。

※1 出典：内閣府ホームページより



「自分の強みを理解し、それをふまえてインターンへの初心表明をする」を目標に、自己紹介とワークを行いました。(参加者：10名)



「自分自身を知り、相手に伝える」をテーマに行い、オリエンテーションの時とは違うワカモノの一面が伺えました。(参加者：17名)



「活動での気づきをふまえて、なぜインターンに参加したのかを再確認・再認識する」をテーマに実施しました。(参加者：18名)



これまでの活動を踏まえて、「今後のインターン活動で自分自身がどう成長したいか」を考え、発表してもらいました。(参加者：14名)

プログラムの流れ

本プログラムは6月からの約7ヶ月間、ワカモノが様々なNPO・市民活動団体にてインターン活動を行うものです。

プログラム自体は6月以前から始動しており、準備期間も含めると1年に及びます。4月からワカモノ募集の広報活動を始め、5月にはインターンに関心のある学生を対象に説明会を開催しました。

インターン期間中(6月20日～翌年2月28日)にはワカモノ同士の親睦を深めることに加え、インターン活動においての必要な知識を積む目的として、毎月1回の定例会(計6回)と中間発表会、成果発表会が行われました。

1年間の集大成である成果発表会では、ワカモノ一人ひとりがインターンで得た成果・団体への感謝を伝え、インターン活動を締めくくりました。

このページでは各定例会を含む本プログラムの1年間の流れを紹介します。



参加者全員で顔を見ながらインターンへの想いを話し合い、プログラムに対する疑問を解消する時間となりました。(参加者：33人)



ワカモノが全員揃い、本プログラムへの参加動機、目標等を考えました。和やかな雰囲気でした。(参加者：27名)

事後研修



インターンで体験したことや気持ちの変化などを、いくつかのカテゴリに分類しながら振り返り、共有しました。(参加者：9名)

成果発表会



「活動の成果と受入団体への感謝の気持ちを伝える、表現する」をテーマに発表し、総勢85名の方が来場されました。(参加者：85名)

受入担当者座談会



受入担当者が集まり、ワカモノを受け入れるなかで抱える悩みや気づきを共有しました。(参加者：25名)

番外編

芋掘りにも
行きました！



2014年度のプログラム参加団体である「NPO 法人市民農園を拡げる会」にて芋ほり体験を行いました。有志メンバーで参加し、普段とは違う団体で活動しました。(参加者：6名)

中間発表会



「インターンを通じて再確認・再発見した自分のこと」をテーマに、活動への姿勢や想い、考えが伝わる発表でした。(参加者：35名)

第4回定例会



藤沢駅周辺を散策し、気になったものを話し合い、発見を通して自分の考えをお互いに共有しました。(参加者：17名)

第5回定例会



「成果発表会に向けた話し合い」をしました。3期生が主体となり、役割分担や目標等について意見を出し合いました。(参加者：13名)

第6回定例会



半年間の振り返り＋インターン終了後の目標設定とワカモノ一人一人の個性溢れるポスター制作を行いました。(参加者：22名)



こやま ゆうこ
小山 優子



みのだ めぐ
笈田 萌



サポートメンバー による座談会

1年間、ワカモノ3期生を支えた事務局サポートメンバーの想い

サポートメンバーから見たワカモノ
インターンプログラムとは

ー皆さん、今日はよろしくお願ひします。まずはサポートメンバー内での役割を教えてください。

門倉 僕は唯一サポートメンバー2年目なのでその経験をいかして、4人が1つのチームとして動けるように、まとめていくことをやって



おのうえ たいち
尾上 太一



かどくら けいすけ
門倉 啓介



いました。

小山 ワカモノの中でも高校生コースの企画やそのサポートをメインにやっていました。高校生は大学生に比べて様々な経験が少ないので、インターンの中での悩みを聞いたり、引き出し

尾上 7月から1月まで毎月ある定例会の1年間どういったテーマや目的で行っていくかの企画書を書かせてもらいました。また定例会当日では3期生の前にたって進行などを主に行いました。

簀田 他のメンバーとは少し違って、2期生としてインターンしていたところから取り組んでいたことの延長で資料作成全般を主に担当していました。ワカモノに寄り添うという形より裏方としてワカモノをサポートするみたいな。

ーでは、サポメンからみた3期生とは？

尾上 3期生はもともと個性が豊かな人が多い印象です。起爆剤になれ！を定例会のテーマにしていたのですが、見ていてみんな1人ずつがすごい個性だな、と。

小山 個性強いよね。最初のワークで使ったシートをみても、「自分」というものを持っている印象があります。

簀田 自分を理解している人が多いのかな。最初に集まった時からみんな自分が何をしたいのか、どう成長したいのか、を言っていて。きくと成長するんだらうな、と。

小山 経験を重ねていって、みんなステップアップしていたよね。やるときはやる！本番に強い！というのを成果発表会で感じたな。

門倉 確かに。3期生は年齢差とか気にせずお互いに刺激し合っている印象があったね。

簀田 成果発表会の準備も、いい意味でみんながぶつかり合っていて。1、2期生にもない色

が出ていたので、このつながりは
ぜひ続けて欲しい！

門倉 みんなこのプログラムに自分な
りの価値を持っていたんだろ。実
は次のサポメンやりたいという人も多
かったんです。僕が感じているプログ
ラムの良さが伝わったみたいで嬉し
かったです。

NPO インターンの魅力

— そんな3期生を育てたワカモノイ
ンタールの魅力ってなんだろう？

門倉 1、2、3期という流れを見て
いて、ワカモノの手（サポメンも含む）
でどんどん磨かれていっているように感じて
います。決して同じにならない、その
年ごとの色になっていく。

小山 他にも先輩が関わっているのは
すごくいいよね。たまに定例会来てく
れる人もいるし。学校じゃないけれど、
たまに帰れる場所って感じ。



尾上 太一（芝浦工業大学1年）
本プログラム2期生。本年度はサポメンとし
て、定例会の企画・運営やワカモノのサポー
トを行う。座右の銘は「自由奔放」

尾上 確かに、その感じありますね。
年の差があっても対等に話を進めてい
く。学校では絶対に出来ない新しいコ
ミュニティーの1つかなと。

簗田 普通インターンプログラムって
1直線上の目標に向かって頑張るの
み。このプログラムは様々な地域・年
代の、団体やワカモノとも出会える。
他のみんなと仲良くなりたいたい！と思え
ることが魅力。

— なるほど。地域のNPOなどにイ
ンタールに行くことで学生が得られる
ものとかありますか？

小山 一言で言えば世界が広がるこ
と。学校だけではできない経験ばかり
で、経験や考えにプラスになることが
多いんじゃないかな。

門倉 視野が広がる、かな。様々な生
き方や働き方・活動があつて。そうい
う方々に触れることが学生にとって刺
激になります。

尾上 選択肢が増えます。何も考えず



簗田 萌（文教大学4年）
本プログラム2期生。本年度は、定例会の資
料作成やワカモノのサポートを行う。座右の
銘は「time waits for no one」。



門倉 啓介（立教大学4年）
本プログラム1期生。本年度は、サポートメ
ンバーのまとめ役を担う。座右の銘は「恩は
返すものではなく、送るもの」。

に小学校や中学校にいくと、そのまま
企業で働くのかな、と思ってしまうが
ち。新しい選択肢なんじゃないですか、
学生からみたら。

簗田 いい意味での広報活動、が出来
ることかな。社会貢献やNPOには、
好きじゃないと学生は参加しない。で
もこのプログラム参加者が発信した
ら、身近な友達がそういう活動をして
いる、と他の学生も自然と興味を持つ
のではないかな。

門倉 NPOの多種多様さに救われ
ている気がしますね。居場所ができる。
という安心感。社会のセーフティネッ
トになっているのでは。

継続し、その先へ

— 最後に、このプログラムの今後に期
待していることを教えてください。

簗田 私は、学生と地域（社会）をつ
なげたい。このプログラムだからこそ

できること。大人を知って社会を知つ
て、その方々にも学生を知ってもらえ
たらいいな。

尾上 普段は秘めている魅力。「何か
をしたいな」ともんもんとしている、
同じことを考えた人と出会える場所で
あつてほしいです。

小山 もっと高校生にもこのプログラ
ムが広がってほしいとこの1年で思
いました。参加して成長した姿を見る
ことが出来ましたし、もっともっと高
校生の参加者が増えたらいいなと思
います。

門倉 今後このプログラムに期待する
ことは、継続してほしい。その中でど
んどん広がって拡散していったほしい
です。100人いたら数人しか定着
しないと手塚さんは言っていたし、ま
ずは継続しないと、その数人の人も育
たないので。あらゆる地域で広がって
いって、その先にあるユートピアを目
指していったほしいなと思います。



小山 優子（文教大学院1年）
本プログラム1期生。本年度は、高校生をメ
インにサポートを行う。座右の銘は「一期一
会」。



16 人のストーリー。

「素敵な人たちに会えた」、「視野が広がった」、「『なりたい自分』ができた」、
「芯を貫く大事さを知った」、「地域への愛着が増した」

NPO インターンを通じて、成長したワカモノ 16 人のストーリーをご覧ください。



“生き方”が素敵の方々や、
“国際人”と出会えました



たけしま
竹島 ひかり

基本データ

学校・学年	文教大学 3 年	
団体名	NPO 法人 湘南スタイル	 まちづくり
活動中、心が けていたこと	『自分から動く良い機会にする』	



長期間インターンしたい、NPOであればなおよし。先輩のススめもあり…

このプログラムに参加したきっかけの一つは、学校内で説明会があり、普段サークルでお世話になっている先輩に紹介されたことです。他にも、インターンを探していて、長期間のNPOであればなお良いなど。また、高校3年の頃から社会貢献意欲が強くなったことや、国際協力サークルの代表の経験から学生との繋がりはあるので、出来れば多世代の方々と「仕事」で関わってみたいと思ったからです。そんな中、地域と関わることができ、様々な世代の方々がたくさんプロジェクトで動いている湘南スタイルに興味を抱き、インターンに参加させていただくことになりました。

“生き方”が素敵！な方々との出会い

活動を始めてまず感じたのは、団体に関わる方々が優しい方ばかりだったこと。そして、生産者、販売者、購入者がWIN-WINの関係で笑顔がうまれていくイベント作りを体感できたことです。私も実際に湘南マルシェというイベントで売り子を担当しました。またウェブメディアを制作する事業で取材に行った飲食店では、湘南に移住してから飲食店をスタートしたマスターの話聞くことができました。他人の人生を垣間見ているような気になりながらも、目を輝かせながら楽しそうに語るマスターの表情がとても印象的でした。また、都内の一流企業で働き、その後、活動を湘南に移し

た後も充実した公私ともに充実し、とてもさわやかな立ち振る舞いだった担当の清水さん。まさに生き方が素敵！な方でした。

クロースマインドからオープンマインドへ

活動中にこだわったことは「自分から動く良い機会にする」こと。元々普段の自分はどちらかというとクロースマインドで、相手の出方を見るような接し方でした。活動に臨む際は、オープンマインドを心掛けました。その結果、自分のなかの“やらないフィルター”を取り除くことが出来た気がしています。もう今では「何でも来い！」みたいな気持ちになっています。

国際人との出会い、活動や出会いのその先

このプログラムへ参加するにあたり、同世代の横の繋がりを作る意識はあまりなかったです。でも、成果発表会で一緒に司会を担当した北村さんと出会えて、本当に良い機会になりました。彼女と話していて感じたことは、国際人だということ。3つ年齢が離れていながらも、自分の同じ年齢の頃では考えてもいなかったようなことを考えたり実践していたりしている彼女と接して、自分も負けていけない、と感じました。刺激を受ける仲間が増えたことはとても嬉しいことです。

こういったインターン活動や様々な方との出会い、大学での学びを通して、将来は地元に戻り国際協力や開発協力の分野を教えることのできる教師として、素敵な出会いを作っていける社会人になっていければと思っています。



自分の可能性が広がる、 出会いと喜びの日々



いけだ みほ
池田 実穂

基本データ

学校・学年	神奈川大学 2 年
団体名	藤沢市民まつり実行委員会  まちづくり
活動中に印象に残った言葉	『寄ってきてもらえる雰囲気があるんだよ。 自分から話しかけなくても、それも個性なんだよ。』 受入担当者より



自信を持って何かをした ということを作る

以前から、大学生活の中で、何か、「コレを
やりました！」と自信を持って言えるものが必
要だと思っていました。そして、3年生にな
るとゼミと就活が始まるため、何か行動を起す
なら今はチャンス！と考えたところでした。こ
のプログラムの説明会が大学で開催されること
を昨年度のOGの宮下さんから聞き、高橋さ
んと説明会、そしてインターンへ参加すること
にしました。高橋さんが参加するので1人で
はない、という安心感が参加を後押ししてくれ
ました。参加にあたり、いけばん気になってい
たのが、大学の勉強との両立。宮下さんから「勉
強との両立も大丈夫だよ」と聞くことができ、
安心して取り組むことができました。

視野が広がった、イベントでの経験

インターン先は藤沢市民まつり実行委員会で
した。活動中、様々な資料をまとめていく中で、
企画・運営に対する重いが強くなり、本番では
リサイクル楽器づくりを企画しました。1ヶ
月前より企画していたのですが、なかなか自分
の中でイメージができず、実施前夜に最終仕上
げをすることに。「もっと早く取り組めたら」
と反省しました。

藤沢市民まつり以外も、「ちよい呑みフェス
ティバル」等のイベントに関わることができま
した。チラシ配りが初めて行った時のこと。は
じめはなかなか通行人にお渡しすることができ

ずにはいましたが、上手い人のやり方を観察し真
似てみることで、チャレンジしていききました。

スペシャルなものを見つけたい

インターンシップを通じて、今まで得意では
なかった「自分から話しかけるスキル」が会得
できればいいなと思っていました。そうは言っ
ても、スキルが身についているという確証はあ
りませんでした。中間発表会際のプレゼン準備
で振り返った際に、担当の桜井さんに「自分か
ら話しかけられるようになってるよ！」と客
観的に言っていただけでした。周りの方に変化
を感じてもらえていることを知り、自信へとつ
なかりました。

自分の変化は、ワカモノの定例会の中にもあ
りました。それぞれが自分の得意なことを見出
し、目標に向かって着実に取り組んでいて、刺
激を受けました。「自分の中のスペシャルなも
のを、自分も見出していきたい」。そう思える
きっかけをくれました。

今回、この半年間を通じて得た2つのこと。
今までは、自分には、事務職しか向いていない
かもしれない、と思っていて、自分で自分の選
択肢を狭めていたように思います。が、様々な
イベントを通じて、担当の桜井さんや多くの
方々とお話をするのができ、イベントを企画
する仕事への関心も高まりました。「ぜひ地元
でもこういうイベントをやってみたい！」そん
な、将来の道を拓け、出会いを得たインターン
でした。



視野が広がった、
中学生とのかかわり



ますや みつき
榎谷 美月

基本データ

学校・学年	東洋英和女学院 3 年		
団体名	NPO 法人 湘南 DV サポートセンター	 子ども	
活動中、心がけていたこと	『子どもからどう話を聞きだすか？輪の中にどう入れるか？』		



インターンしたい、と先輩に相談

大学3年間を振り返ってみて、自己分析していると、部活しかやっていないのじゃないかとの危惧がありました。部活（合気道）をしても合気道初段です、と伝えても「で、どうなの？」と聞かれてしまうともも返す言葉がないなあと。そこで、先輩とご飯を食べている時に、インターンしたい、と相談をしてみました。そこで紹介してもらったのがこのプログラムでした。また、大学では心理学を専攻していて、いじめ問題等に関心があり、デートDV防止活動などを行っているNPO法人湘南DVサポートセンターにユースリーダーとして、お世話になることになりました。

一から取り組んだランチパーティ企画

担当した作業は、ざっくりいうと雑務が多かったです。書類を整理したり、会場設営をしたり。ですがだんだんと活動に慣れていき、毎年12月に行っている「いじめ防止スクールバディ・サミット」という中学生が集まる大きなイベントでは、ランチパーティの企画を一から担当することになりました。実際に取り掛かってみると、昨年からの引き継ぎ状況を知っている人がおらず、何から手につけて良いのか、という状況に陥りました。そこで、先輩でもある1期生の松井さんをお呼びして、状況把握に努めたりした覚えがあります。そうして迎えた当日にも、開始30分前に用意してあるはずのマイクが見つからない、などの事態もおき、リス

クマネジメント（当日は何かおこるかわからない）の大切を学ぶことができました。

改めて気づいた自分の他者への意識

成果発表会では広報を担当し、チラシ配りやチラシの発送作業を行いました。約二千部近くあったチラシを全て配布できたのは、「誰かがやらないと終わらない」と自分で強く思っていたから。やるとなったらとことんやります。その反面、意見が人とぶつかることは極力しないようにしています。自己主張はちゃんとするが、あまり熱くならないことが多いです。なるべく自分に関わりません、と思っているのかも。それなのに後輩が困っていると、つい助けしてしまう自分がいます。自分では意識していないけれど、人のサポートやフォローは出来ているみたいですね。自分のなかの理想が高いのかもしれません。

中学生とのかわり

活動を振り返って印象に残っているのは、中学生が学校で半年間かけて作成した動画をみて、とてもクオリティが高かったこと。また、いじめ防止に関わっている中学生たちがこんなにいるんだ！と驚いたことです。それもあってか、その中学生とのかわりを通して、視野がとて広がりました。インターンしたい、から始まった活動でしたが、NPOのインターンでは、学生の立場でも主体的に取り組めると思っていたので、何かを残したいと感じていた自分にはぴったりでした。



自らチャレンジ！
出かけたことで広がる、
わたしの景色



たかはし
高橋

みさ
翠紗

基本データ

学校・学年	神奈川大学 2 年
団体名	認定 NPO 法人 WE21 ジャパン 
活動中に印象に残った言葉	『フェアトレードは色んなやり方があるし、支援のやり方が違う。やり方が違うけど伝えることが大事。』 受入担当者より



挑戦の理由は友人の言葉

「インターンは大変だったけど、以前、躊躇していたことにチャレンジできるようになったよ!」と、このプログラムOGの宮下さん。この言葉を聞き、せっかく目の前にチャンスがあることだし、一番融通が利く時期である大学2年の今しかないと思い、挑戦することになりました。

私は、販売のアルバイトを行う中で、いかに在庫を減らしていくか、というアイデアを考え、工夫することが好きなんです。その経験も活かせられたらと思い、インターン先をフェアトレード商品の販売やリサイクルショップを運営するWE21ジャパン（以下、WE）へ決めました。

経験を積むことで得た「実感」

WEでは主に、イベントでジンジャーティーの販売や、フェアトレードを知っていただくための広報業務を担当しました。今回、インターンを行う上での目標は、「経験を積むこと」としました。

グローバルフェスタや他のNGO主催のイベントなどの活動現場に赴くことで、同じ労働問題などのテーマを扱うNGO・NPOでも実施内容やアプローチ方法が異なることを知りました。世界に目が向くことができたのと同時に、自分の興味の幅も広がる機会となりました。

活動中に特に嬉しかったことは、自分が作っ

たチラシを見てもらい、ジンジャーティーを購入することで、何の役立っているのかをお客様に知っていただき、チラシの効果を実感できたこと。それと同時に、自分たちが知ってもらいたい情報だけを伝えても、興味を持ってもらえないこともあり、団体の思いを伝えながら販売することの難しさを実感した機会でした。

自分の目で見て感じ取る大切さを知る

活動に更に興味を持ったのは、担当の小池さんから「フェアトレードは色んなやり方があるし、支援の仕方団体によって違う。知らない人に知ってもらうことは大変だけど、知ってもらうにはどうするべきか?を考えることも大切」と教わった言葉がきっかけです。それにより、フェアトレードの意義を更に伝えていきたい、と思うようになりました。そこで、大学でフェアトレード講座を企画、実施しました。山岡准教授のゼミでフェアトレードについて勉強していたとのことで、昼休みにもかかわらず多くのゼミ生が集まってくれました。

どのように知らせると、他の人に伝えたいのか。その答えは、「自ら足を運んで、自分の目で見て感じ取ること」。それに気づきかけをWEでのインターンを通じて得ることができ、本当に感謝したいと思います。ここでインターンの経験を終わらせるのはもったいないので引き続き、アクションを起こしていきたいです。



映像全体の見方が変わった。
夢を持っている人はぜひ参加して



みのわ
蓑輪

あいか
愛香

基本データ

学校・学年	藤沢総合高等学校 3 年		
団体名	NPO 法人 湘南市民メディアネットワーク	 子ども	
活動中に印象に残った言葉	『高校生なんだ！！』		
	ワカモノより		



映像関係の仕事に就きたい

テレビ番組を作りたい、映像関係の仕事に就きたい、と中学生の頃から考えていました。その理由で選んだ高校の同級生が2期生として昨年参加していたことを聞きました。そして、映像制作の授業で講師をやっていたのが今回活動することになった団体の中野さんです。学校での授業は週1のペース。インターン活動でもっと映像の技術面を伸ばしていきたいと思い、このプログラムに参加しました。

全体を見なくてはならない、だからこそできた「教え方の工夫」

活動では、色々なワークショップに携わりました。最初は教え方が全然わからない状態でした。参加者の方々は小学生や、高校生の同い年、NPO団体の社会人の方々など場所や回ごとに様々な世代の方。私は感覚的に教えてしまうタイプなのですが、なるべく具体的に教えるように心がけました。一番最初のワークショップで、グループにわかれて作業している中「全グループをみるように」と中野さんから言われていました。アドバイスするときに、技術面の内容に徹することができたのもその指示がきっかけでした。撮影する人には感覚でアドバイスしないこと。撮る人たちがどういう思いで撮っているか私にはわからないので、撮る人の思いを大事にするように。そういった教え方の工夫に気づくことが出来ました。

様々な「人とのつながり」がありました

NPO映像祭というイベントで、作品を出展して準グランプリをとりました。イベント当日、映像制作ワークショップの参加者の方に再会し、「あの時はありがとうございました」と声をかけてもらいました。たった2回、数時間のワークショップでの出会いを覚えてくださったのは嬉しかったし、面白いと感じました。映像を通して多世代の方との輪が広がるのは面白いつながりだなって。結果その方の団体は、映像祭で優秀賞を受賞。グランプリを取ったのも別のワークショップで一緒にいた方でした。様々な世代の方々に会って、その分だけの「世界観」を知ることができたのは、本当に勉強になったし、参加して得られた貴重な経験です。

夢を持っている人に参加してもらえたら

このプログラムに参加したことで、「映像の見方」が変わりました。例えば、映像を知っているからこそ撮れない撮り方があるとか。ワークショップで教えていると、素人ならではの気づきがあります。映像を撮るだけじゃなくて、映像を通した人のつながりの面白さ。いろいろな世界観。出会った様々な人たちがきっかけで違った見方ができるようになりました。私のように映像制作の仕事に就きたい、と職種まで決まっていたメンバーは少なかったので、夢を持った人たちにこのプログラムに参加してもらいたいなと思っています。その夢への道に直接つながらなくても、間接的につながるものがあると思うから。



考え、実践することを通して得た視点



あおき りょうへい
青木 亮平

基本データ

学校・学年	中央大学 2 年		
団体名	藤沢市民まつり実行委員会	 まちづくり	
活動中に印象に残った言葉	『何事にも理由をつけなさい』		
	受入担当者より		



なかなかOKをもらえない

インターン先は、藤沢市民まつり実行委員会。藤沢市民まつり（以下、市民まつり）の会場の1つである秋葉台会場で、誰もが楽しめるスタンプラリーを企画しました。企画内容に対して、OKをもらうまでの道のりが長く、大学とはレベルが違つと感じました。大学では300人規模のイベントの企画・運営を担ってきたのですが、こんな風に指摘された経験はありませんでした。担当の桜井さんからOKをもらうために、きちんと自分の頭の中を整理し理由付けを行い、GOサインをもらえるよう努力しました。

市民まつり当日は、途中からあいにくの雨模様。雨天仕様にスタンプ台の位置を変更しました。スタンプラリーのメインターゲットである子どもの目線で、どこに設置すると良いか、自分でシミュレーションしながら配置を変更したつもりでした。でも、年配者という想定外の参加により「場所が分かりにくい」と1件クレームが入りました。参加者の動き方と自分の想定が異なっていたようで、参加した500組のうち、たった1組ですが、全員の満足感を得られることの難しさを実感した出来事でした。

NPO X 長期インターンの魅力

そもそもこのインターンに参加したきっかけは、長期で活動することで実際に働くことに近い内容ができるのではないかと考えたためです。先輩からの話では、企業のインターンはほ

ぼオリエンテーションとなっていたり、短期のためきちんとした業務まで取り組めないと聞いていたこともありました。もう一つの理由は、NPOだから。NPOは、企業勤めの人が出週末だけ行うものだと思っていて、NPOで働いている人がいることや、就活でNPOに行くという視点を持つ機会が今までありませんでした。長期のインターンに参加したくて、申し込んだこのプログラムを通じて、様々なNPOを知る機会となっただけではなく、大学生生活だけでは考えたことのない視点で物事を捉えられるようになったと思います。

藤沢のステイブ・ジョブスになりたい

活動中には「組織の中での働き方」を意識しました。「誰がどんな業務を担い、誰がそれをチェックするのか?」「自分はこのチームの中でどう動いたら、より良くなるのか?」をきちんと考え、さらに業務を行う上での改善提案を、自分からできるようにもなりました。

最後に、私が目標としている人は、アップル元CEOの故スティーブ・ジョブスです。藤沢のステイブ・ジョブスになるべく、自分が活躍できるフィールドで、今既にあるもの同士を結び合わせて、新たな事業を興していきたいです。こんな風に思えたのも、市民まつりで、スタンプラリーを企画し、どうしたら良くなるのか、しっかり考える機会を与えてもらったこと。また、スタンプラリーを行う子どもたちの喜ぶ姿を実際に見て、やりがいを感じたからです。



Face to faceで得た信頼関係 ～日中の架け橋となることを目指して～



う こうう
于 宏宇

基本データ

学校・学年	神奈川大学 3 年
団体名	認定 NPO 法人 地球市民 ACT かながわ / TPAK  国際
活動中に印象に残った言葉	『国際交流や国際協力は褒め合うことも大事。 だけどお互いに改善点を指摘しあうことも大事。』 受入担当者より



机上の空論で終わらせないために

私は、中国の大連出身です。父の仕事の影響もあり、将来日本で団体、もしくは会社を立ち上げて、日中の交流を促進していきたいと考えています。そのために今、大学で国際経営を学んでいます。その学びを机上の空論にしないためにも実践の場を求めて、このインターンシッププログラムに応募しました。

インターン先は、事務局との面談を通じて地球市民ACTかながわ／TPAK（以下、TPAK）に決めました。TPAKでは自分の好きなこと、目指すものなどを丁寧にヒアリングしてもらい、自分の希望を共有することができました。このヒアリングから自分の希望に応じたプログラムを考えていただきました。例えば代表の近田さんから、非営利組織の経営についてのレクチャー。それ以外にも、フェアトレード商品などの仕分け作業をしながら、事務局長の伊吾田さんから「なぜこの商品売っているのか？」などの経営に必要なノウハウを学ぶことができました。

TPAKでは、ランチの際にみんなで話し合いを行うことを大事にしています。そこで地元について話をする機会がありました。地元の大連は、環境未来都市構想などで日本とのつながりが深い都市にも関わらず、メディアに掲載される情報が少ないので、知っていただく機会ができたことが本当に嬉しかったです。団体のSWOT分析をスタッフの方と一緒に行うこともありました。そこでは、自分の視野より分

かりやすく、広く捉えており、やはり社会人は違うなと感じると同時に、自らの視点が変わる機会へとつながりました。

人と人として関わりあう

言葉に出してコミュニケーションを取ることを重視しているTPAK。「国際交流や国際協力は褒め合うことも大事。だけど、お互いにこういうところを改善すればもっと良くなるよ」と指摘しあうことも大事。そうすることで信頼関係もより密接になるのではないか」という言葉が印象に残っています。

「信頼関係」を築くためには、互いに認め合うことが大切です。同じ日本人同士でも考え方や価値観は千差万別。ましてや、国が変われば違うこと・同じこともあるのは当然のことなのではないでしょうか。だからこそ「○○人」と見るのではなく、人間同士の付き合いを進めていきたいです。

違いを認め合い、理解し合うこと。インターンに参加することで、組織の運営の仕組みを学びました。実践や検証を行うだけでなく、目の前のやりたいことを進め、勉強以外に交流活動に多く取り組んでいきたいと思っています。

最後に、インターンでTPAKに伺った際に、一時期、私が体調を崩し、食欲が無かったことを知ると、近田さんが「きちんと食べて栄養つけないと!」、とご飯を作っていたいだたり、皆さん、心配して気遣ってくださり、本当に温かく、良い人たちに巡り会えたことを感謝したいです。



自分らしさを出していける自分へ



おのうえ きいち
尾上 稀一

基本データ

学校・学年	芝浦工業大学 1 年	
団体名	昔の遊びを伝える会	
活動中、心がけていたこと	『自分らしさ、特徴、自分を出していく』	



新生活、何かに力をいれて取り組んでみたかった

2016年春、大学に入学しました。昨年は受験生でした。ひとつ上の兄はいわゆる浪人で、兄弟二人で受験勉強をしていました。その間、兄が塾での勉強ではなくインターン活動に力を入れており、このプログラムに興味を持ちました。進学が決まった時、兄から誘われてエントリーをしました。高校までは卓球部に力を入れていたのですが、通う大学で卓球に関わるにはサークルがなく、何かに組み組みたいと思っていたところでした。子どもたちに何かを教えたりした経験があり、また以前教わった先生がいるなと思う、昔の遊びを伝える会で活動することになりました。

思わぬ出会い

大学では以前から興味関心のあった建築分野の学科に進みました。インターン中に、思わぬ出会いがあり、嬉しい体験をしました。宿場体験ツアーという事業で藤沢宿を巡っていた時です。現在まで残っている蔵を見る事ができ、藤沢市役所郷土歴史課の担当の方と建築に関わる話をする事が出来ました。また新しく建てられた宿場のシンボルになる建築物、藤沢宿交流館での事業に携わることが出来たのは、自分にとって良い機会となりました。担当して下さった佐野さんを通じ、同じ分野の方々との出会いの機会がいただけたこと。また自分が持っているものを活かして学びにも活かせること。これ

はこのインターンならではのことで感じています。

子どもの立場にたった目線を意識しました

担当として関わった事業では、シニア世代に混ざって子ども達に縫い物を教えたり、折り紙でひな人形や花飾りを教わりながらまた教えたり、といくつかのイベントに携わりました。その中でも力をいれて取り組んだのは、「双六作りの企画。交流館や活動場所である蔵まえギャラリーで、子どもたちが双六を作るというもので、企画段階から実際の現場で指導するところまでを担当しました。シールの色にどういった意味を持たせるかだったり、マスの設問作りと一緒にしたり、子ども達の目線を意識しながら彼らの立場にたった企画作りをすることが出来ました。

人前で自分らしさを出していきたい

今もまだまだですが、人前で話すことがとても苦手で。大学の授業で顔がカタイ、と言われたことも。どうにか克服しようと笑顔の練習を試みたり。自己演出という言い過ぎかもしれませんが、そういった努力をしていた中で、同じくインターン活動に取り組む仲間の中でひととき活気のある北村さんに刺激を受けました。年の差があるメンバーの中で自分を出しているところがうらやましく感じていました。今後は人前でも、自分らしさ、自分の特徴をどんどん出していける。そんな「新しい自分」になりたいと思っています。



自分を知る場々対話の中で得られた気づきーTPAKでインターンしてー



とみた まほ
富田 真帆

基本データ

学校・学年	東海大学 4 年
団体名	認定 NPO 法人 地球市民 ACT かながわ／TPAK  国際
活動中に印象に残った言葉	『年に 1 回のプレゼントより、日頃からその人のことを気にかけている方が、うれしいよね。』 受入担当者より



共有する場を通じ得た経験

「トピックを持ってきてくださいね」と宿題をいただきました。例えば「経済発展は必要か？」など漠然としたものでも何でもいいのか？。自分の中で、日頃問題だと思っていたことを「トピック」として活動日に持ってきていきます。

地球市民 A C T かながわ／ T P A K (以下、 T P A K) では、ランチタイムにスタッフやボランティアなど、そこに集うみんなで社会情勢や個々が疑問に感じていることなどについて話し合う時間を大切にしています。話し合う環境を通じ、自分自身がしっかりとその問いに向き合い、考えるきっかけとなるだけでなく、他の人の考えを知ることでも自分の思考のクセや大切している思いなどを客観的に見る場にもなりました。

海外支援は「現地での活動のみ」とこだわっていた自分がいました。直接現地に赴いて、現地の人の笑顔を見ることに達成感を得られると思っていたんです。 T P A K での活動を通じて、日本に居ながら継続的に少しずつ関わることの重要性や支援内容の多さに気づくことができました。日本でもできる支援に関して、 T P A K の方がこんな話をしてくださいました。「年に1回のサプライズプレゼントよりも、日頃からちよつとずつ声をかけて、その人のことを気にかけている方が、関係の密度が濃くなり、うれしいよね」。派手ではないかもしれないけど、小さなシンプルな方法でも、こんなに

もたくさん、できることがあるんだ！と目からうろこが落ちるほど、大切なことを学んだ時間でした。

日々の支援の重要性に気づいた

講演会にて、タイの子どもたちが作ったフェアトレード商品を販売する機会がありました。当日、ボランティアで関わる中学生6人のサポートも行うこととなりました。販売時はお客さんに単にこちらの思いを伝えるのではなく、フェアトレードの価値を伝えることが大切だと学びました。「これってかわいいいけど、誰が作ったの？」と聞いてもらえた時がチャンス！楽しみながら国際協力に参加できるよう、誰でも活動に関わりやすい雰囲気を作ることに意義を感じました。ボランティアに関わる中学生に対しては、「仕事をするのは楽しいんだよ」と口で説明するのではなく、一緒に作業したり、取り組むことで楽しさを感じ取ってもらえるように意識しました。

知らない文化・人に会うこと。私はそれが好きだし、それができるのが国際協力活動の魅力だと思います。人や社会のためにもなるし、自分のためにもなるからです。海外に行く心が動くけど、一方で地道に、着実な取り組みを知ることができたことが T P A K でインターンを行うことができた価値だと思います。4月からは電子書籍を取り扱う企業に就職します。今後は海外で楽しんだ分、 T P A K で学んだ、「日本に居ながらできる支援の方法」を通じて、恩返しを行っていきたいと思います。



挑戦したことに意義がある！
 ～できるチャンスを活かして～



うさみ あいり
 宇佐美 乃理

基本データ

学校・学年	日本大学 3 年	
団体名	認定 NPO 法人 藤沢市市民活動推進連絡会	 まちづくり
活動中に印象に残った言葉	『辛くても逃げないよね』 受入担当者より	



「何か」が変わった内容の濃い5ヶ月

今まで、大学を出るとなんとなく社会というルールの上に乗っかっていくんだな、と漠然と考えていました。一方で、「何か」を変えたいと思っていました。

この5ヶ月間は本当に内容の濃い日々でした。大学では経験できないことをし、それほど辛いことなく思うこともありました。インターンシッププログラムを通じて、今まで知らなかったことやハードルが高いと感じていたことが、実は「自分にできること、向いていること」なのではと思うことができました。

NPOのことを知る良い機会にもなりました。友人たちにNPOでインターンをしていくことを話すと、初めてNPOを聞いた人が多いことはもちろん、「本当に自分の為になっているの?」「学校のことよりも大事なの?」と言われることもありました。しかし、「他には経験できないことができる」ことがNPOインターンの特徴だと思っています。藤沢市民活動推進連絡会でのインターンでは、「なぜこれが必要なのか?」と、行うことの先にある理由や意味まで教えていただくことができました。また、ラジオの生出演や、ボランティア情報誌の『VOLUNTEERS (ボランティアアイズ)』の編集、藤沢市民まつりといったイベントでの運営等への参加など、普段の学生生活ではなかなか経験できないチャンスを得ることができたことが、このインターンに参加した成果

だと感じています。

“責任”を負うことで得たもの

今回成果発表会に向けて、私は「総監督」に立候補しました。成果発表会は、自分の取組みや成長した姿を伝える集大成の場。そんな大役に意気込んで挑戦しましたが、本当に辛かったです。かつて、部活で自ら立候補したリーダーが、途中で逃げてしまった様子を見ていたので、絶対に逃げずに頑張ろう、と頑張っていました。しかし実際に総監督に就くと、どう進めていいのかわからないし、気持ちばかりが急いてしまい、誰に相談したら良いのかも分からなくなっていました。リーダーになってみて、初めてその子の大変さに気づくことができました。

3期のメンバーの中には、リーダー経験者が多く、学ぶ部分も多くありました。私が間違ったことを言えば、それを指摘してくれるメンバーがいたり、指示が無くても自ら動くメンバーが多かったことに後で気がつきました。発表会が終わると不思議と、自然と体も軽く感じ、プレッシャーを感じていたことに改めて気づきました。その中でも、担当の桜井さんから、「逃げずにきちんと取り組んだね」と言っていたので、自信がついた気がします。

「何事も挑戦することに意義がある」。自分は、こういう人だから、と決めつけるのではなく、その枠を取り払って、できるチャンスを活かしていきたいと思っています。焦りを感じている学生には、ぜひこのインターンシッププログラムに参加することをおススメしたいです。



自然と巻き込まれている、そんな
おもしろいひとになりたい



きたむら めぐ
北村 萌

基本データ

学校・学年	高校 3 年
団体名	NPO 法人 ハーモニーインターナショナル  国際
活動中に印象に残った言葉	『あなたっておもしろいね!』 ワカモノより



高校生コースが始まるみたいだよ。

「今年から高校生コースが始まるみたいだよ」。ボランティアとして参加していた団体の方からそう教えていただきました。大学受験を控えていましたが、志望している大学には課外活動の実績が必要な事と、どうせなら学校に評価されるよりも自分のやりたいことを、と思い参加を決めました。また日本の英語教育を変えたい！との思いが強くなりました。それは教育機関や政治家からではなく、私たちから変えていく必要があるということにも気づき、NPOやNGOの現場を学ぶため、ハーモニーインターナショナルでの活動を希望しました。

世界を変えていく、自分も何かしたい

将来的にはお金を稼ぎ、貧困層を助ける活動をしたいと考えています。単純にボランティアをするのではなく、世界の価値観を変えていくことが大事なのかなとインターン中に感じました。お金が優先される価値の前に大事にできることがあるんじゃないか。それが格差を埋めるきっかけになるのでは？そして自分としてできることをしていきたい。そんなことを考えるようになりました。今までは教育が悪い、みたいに決めつけてしまっていたのですが、教育以外のことを学ぶことで解決できることもあるかも、と思えるようになったこと。これは自分の中でとても大きな変化でした。

理想をかなえてくれた団体、そして一人の先輩との出会い

団体での活動では、自由にやりたいことを実行できる環境作りから走り始める所まで経験させていただき、とても感謝しています。学校では抑圧されてしまうというか、多数派にのまれてしまい、自分の意見がなかなか反映される機会が少なかったのだ。自分の理想が叶っていく嬉しさ、組織の中で意見が尊重されることが本当に私にとって貴重な体験でした。またプログラムの中でも素敵な出会いがありました。同じ3期生の竹島さんはまさに自分の中にある「先輩のロールモデル」でした。成果発表会で二人とも司会を担当して、一緒に打ち合わせなどしている時に、たくさんさんのことを話しました。年の差や立場も関係なくフラットに、お互いが刺激をもらいう関係。もともと司会が得意ではなく失敗したら…と考えていたのですが、当日はその逆境をはねのけて成功を収める事が出来ました。そんな関係を築くことが出来たのも竹島さんのおかげだなと感じています。

よき先輩でありたい、” おもしろいひと”
になりたい

「あなたっておもしろいね！」竹島さんから言われたこのひとことで、これから目指したい自分が見えた気がしました。自然と巻き込まれてしまう、おもしろいひとになること。そして、専門的な職業につき、自分にしか出来ない事で世界を変えるための何かができればと思います。またどんな時、どんな立場でも、よき先輩でありたいです。



「最後までやりきる」
ことを心に誓って



ふじさわ まお
藤澤 真雄

基本データ

学校・学年	東海大学 3 年		
団体名	NPO 法人 まちづくりスポット茅ヶ崎		 まちづくり
活動中に印象に残った言葉	『茅ヶ崎に引っ越した人が何十年後かにココに来て良かったと、思ってもらえるように』 受入担当者より		



自分のやりたいことを見つけない

元々面倒くさがり屋で6ヶ月は長いなと思っていました。大勢の前で発表することも得意ではないし、苦手意識もありました。でもとにかく、何か1つ取り組んでみよう、自分のやりたいことを見つけない！という気持ちで、このプログラムに申し込んでみました。たまたまゼミの友人が、大学内で行われたこのプログラムの説明会に参加していて、その友人と自分のやりたいことを話し合っているうちに「じゃあ、このプログラムに参加してみてもいい？」と紹介されたことが、きっかけになりました。

最後までやりきることのできた自信

将来は、漠然とまちづくりに関わる仕事がしたいな、と思っていたのもあり、浜見平団地の中にある、まちづくりスポット茅ヶ崎（以下、まちスポ茅ヶ崎）に決めました。まちスポ茅ヶ崎では、イベントを中心に活動をしました。一から企画し、運営まですべて取り組むのが初めてで経験ができたことがとても印象に残っていて、結果それが自信につながっているように感じます。

かつては、段取りを人に任せることが多かったです。だけど「最後までやりきると心に誓っていたので、まちスポ茅ヶ崎のスタッフの皆さんにアドバイスをいただきながら、主体的に取り組みました。チラシのつくり方・内容に関しても、『どうしたら目に留まるのか？』を考えつつ、文章に関しては、様々な方に読んで、添

削してもらいました。

家にいる時、「チラシを何百部も印刷し、配布したけど、赤字になったらどうしよう」という不安が頭をよぎることもありましたが。イベントが終わるまでは、不安との闘いでした。心が口から飛び出るくらいドキドキしていたので、本当に行きたくない、とまで思ってしまったこともありましたが。そんな不安を一掃するように、イベントは無事に成功。達成感とともに、何よりも安心感を得ることが出来ました。

まちづくりに携わっていききたい

自分で物事を考えることが苦手だと思っていました。インタースHIPでの活動を通じて、イベントの企画から運営までの一連の取組みを、未熟ながら「最後までやりきる」ことが出来ました。また、まちスポ茅ヶ崎でインターンをしたことで、普段生活する中では見えにくい、縁の下の力持ちとしてまちを支え、貢献していたことに気づくことができました。

担当の柴田さんが、「茅ヶ崎に引越してきた方が、何十年後かに、ここに住んで本当に良かった」と思ってもらえるように日々活動していることを聞き、自分は、「まちづくりに携わっていききたい。衣食住の『住』を通じて、人の人生に関わっていききたい」と決意を固めました。「最後までやりきる」、という経験をしたことで、自分のやりたいことを見つけれられた上、今後の成長に必要な「自信」を身につけることができました。



芯を通して考える機会を得て



たかだ りこ
高田 莉子

基本データ

学校・学年	成城大学 3 年
団体名	認定 NPO 法人 ADRA Japan
活動中に印象に残った言葉	『莉子ちゃんは、このイベントで何がしたいの?』 受入担当者より



働く人を身近に感じて吸収したい

元々、世界遺産を求め、世界中を旅してきました。実際にその現場に行き、自分の目で見て、空気を味わうことで、文化や歴史をインプットし、実感できる。「百聞は一見に如かず」。これが私の信条です。そのため、このインターンも「働いている人が近くに居れば、何か学べるのではないか」という雲をも掴むような思いで取り組みことにしました。

インターンを通じて学んだことは、主に2点あります。ひとつは、「目的をもって考える」こと。もう一つは、「理由付けして丁寧に順序立てる」こと。例えば、「ADRA Japanを知ってもらう。そのために、冊子を作ろう。そのために、内容を考える。そのために、手に取ってもらいたい人に読みやすい文章にしよう。」と丁寧に段取りを考えていくことを学びました。当たり前のことだけど、今まで意識していなかったことに気づきました。

「このイベントで何がしたいの？」

9月に実施した小規模イベントの企画をしたことにより、成長できたと実感しました。イベントは企画に行き詰まってしまうことが、イベント自体はスタッフの方のサポートのお陰で成功しました。この経験から得たのは、「芯を持つ」ことと、「柱を立てる」ことです。

「莉子ちゃんは、このイベントで何がしたいの？」。スタッフの方から言われた何気ない一言で、私はハッとさせられました。今まで、自

分の中で芯が通っていなかったんです。きちんと柱を立てていくことで、自分の中で落とし込むことができるようになりました。12月にリベンジの機会を得ました。今度は9月のイベントより大規模なイベントで、目的は、参加した方がADRA Japanのサポーターになっていただくこと。当日の集客はもちろん、意図していた反応が参加者からあり、目的通りに進めることができたと思います。企画段階からきちんと柱を立てて、目的を意識し、イベント当日までの段取りをスタッフの方々にアドバイスをいただきながら行ったおかげです。

活動最終日には、「莉子ちゃんは、学ぶ姿勢が強く、求めるもの以上の成果を出してもらえた。スタッフと同等の存在だと思っていました。本当に莉子ちゃんに来てもらえて良かった」と言っていただき、思わずうるうるしてしまっほど、嬉しかったです。

ADRAがあるから、今の自分がある

インターンでの経験は、ADRA Japanだからこそ出来たものだと感じています。担当部署のお三方からは、ゴールは自分で見つけられるように道筋を作っていただき、的確なアドバイスをもらいました。ご担当いただいた永井さん、百々さん、山本さんの元でインターンすることができて、本当に良かったと実感しています。近い将来、「ADRA Japanでの経験があったから、今の自分がいるんです！」と自信を持ってご報告できるように、成長した姿をお見せできたらと思います。



まず経験してみようー!と思うように



こんどう ひろと
近藤 大翔

基本データ

学校・学年	藤沢清流高校 1 年		
団体名	認定 NPO 法人 ゆい	 環境	
活動中に印象に残った言葉	『いろんなことをやってみなさい、成功すれば成果になるし、失敗すれば教訓になりますよ。』 団体の方より		



なんとなく、からやりたいことに変化

高校で入っている部活の一環としてNPOに関わったのが、プログラムを知るきっかけでした。学校の先生に勧められたのでなんとなく、というのが正直なところですね。ただ事務局の方との面談など通じて、「やってみないな」と次第に感じていって。受入団体の中で活動していくうちに、段々と自分のやりたいことと、団体のやっていることがリンクしていったことに気づきました。そこが参加を通じて起こった大きな変化だったと思っています。

活動から見てきたNPOの姿

メンバーの方々と一緒に取り組んでいるうちに、NPOという存在に対する考えが大きく変わりました。どういった活動をしているのか、段々わかってきて。植栽ひとつとっても、ただ活動しているわけではなく、まちのために、地域のために活動していると理解でき、明らかに見え方が変わってきました。定例会などそういう思った思いや考えを何度も聞くことが出来ましたし、そういう面を踏まえて砂草講座などで参加者の方へ紹介をしていくので、街の人にも伝わっているのではないかと思います。今後はその砂草講座で、自分が作った動画を流してもらえたら嬉しいなと思っています。

「新鮮な」「興味深い」体験が出来たことが楽しかったです

やってきたことを並べてみると、活動への参

加、撮影、動画編集、ナレーション、それぞれいろんなスキルが得られる経験ができたなあと。撮影や編集の際には、メンバーの皆さんと集まって、意見や助言をもらいながら、「相談すること」を意識して進められました。また、気をつけていたのは自分から動けるようにということ。動画の構成についてまず自分で考えて進めることや、力仕事などは率先して取り組むようにしていました。中でも撮影は、一度逃してしまってもう撮れなくなってしまうリスクがあります。一度後悔した場面もあって、チャンスを逃さないように、自分から積極的に動きました。そういった今までやってこなかったことに取り組むことで、新鮮な、興味深い体験が出来たことが楽しかったです。

参加していなかったらむしろ後悔していた

インターンに参加する前までは、NPOが何なのか、わかりませんでした。NPOがどんな思いで活動しているかなど、ゆいさんの活動や自分の体験談を、今後、何かの機会があれば伝えていきたいと思っています。活動中、代表の荒井さんから「いろんなことをやってみなさい、成功すれば成果になるし、失敗すれば教訓になりますよ」と言われたことがありました。まさに今回の活動自体がその通りでした。実際に活動してみて、自分の自信や成果になったし、失敗したことは次こうしようとするきっかけになりました、まず経験してみよう、と思うようになりました。このプログラムに参加しなかったら、むしろ後悔していたと思います。



正面から本気でぶつか 地域との繋がり かる事で得た



えばた さちこ
江端 佐知子

基本データ

学校・学年	早稲田大学 3 年		
団体名	NPO 法人 湘南遺産プロジェクト		
活動中に印象に残った言葉	『仕事とは別の軸を持っておけ。長い人生の中でどう生きるか分からない』		
	受入担当者より		



きっかけは、「藤沢市 インターンシップ」で検索！

このプログラムを知ったのは、「藤沢市 インターンシップ」で検索したのがきっかけでした。行政の仕事につきたい、地元のことを知りたい、周りの学生とは違う経験をしたい。だから、企業でのインターンは違うなと思っていました。行政のインターンに関しても、二日間くらいしかなく意味があるのか、とも思っていました。だから地元の藤沢で、NPOでのインターンができるこのプログラムに参加しました。塾講師のアルバイトなどもしていて、子ども、福祉、に関わりはありました。なので、同世代以外の世代との関わりが欲しくて、活動先に関してはシニアの方々が活動している団体を希望しました。

いかに団体の発展に関わることが出来るか

企業インターンと違って、このプログラムは、長期間で関わること、組織に深く関わることが特徴だなと感じています。担当者の方とやりとりをする中で、目的意識を持って活動できることも大きなポイントでした。私はとても運が良く、まだ活動2年目の団体でインターンさせていただいたので、団体の基礎づくりに関わられて、とても有意義な時間を過ごすことができました。人生の先輩方でもある団体の方々からの厳しいご指摘をバシバシ受けながら、自分自身の成長を実感しながら活動することができました。団体の発展に、いかに自分が関わる

ことができるのか。それを模索しながら活動した半年間だった気がします。特に和田さんには教わるが多かったです。

私が気づけなかった私の成長

活動中にこだわっていたことは、「正面から本気でぶつかる事」です。メンバーの方々からの期待に応えたい、というのはもちろんですが、「地域で人と関わる」ことを大事にしたかったので、まずは自分から真っ向からぶつかることでコミュニケーションを取っていきけるように、と考えて活動に取り組んでいました。その結果、というわけではありませんが、いろいろな方からフィードバックをいただいた際に、自分自身が知らなかった成長や気づきをたくさん教えていただきました。家族に恵まれていたこと。それが優しさで感動を伝えられる原動力となっていること。発信していく力がついたこと。感性を磨くことができ、文章力があることがわかったこと…。他人から教わることで意外に少ないです。こういった機会を得ることができ、このプログラムに参加して良かったなあと感じています。

プログラムを通じ、たくさんの良い言葉をいただきました。特に、「仕事とは別の軸を持つておきなさい。長い人生の中でどう生きるかわからないから。」という言葉が印象に残っています。この言葉を胸に視野を広く持ち、私がこの活動で出会った尊敬できる方々のような社会人になっていきたいと思っています。



巻き込む力を活かして、
生まれ故郷を盛り上げたい



いまぜき
今関

きょうへい
恭平

基本データ

学校・学年	日本大学 3 年
団体名	NPO 法人 湘南スタイル
活動中に印象に残った言葉	『目的や意図・理由は何なのか』、『参加者を参加者では終わらせない。周りの人を変える影響』 団体の方より



このチラシ、なんだろう、面白そう

大学の研究室で1枚のチラシを見つけ、「なんだろう、面白そうだな」と思い、エントリーしたのを覚えています。今までNPOの活動に携わっていたこともあり、NPOに興味はありました。また、第一次産業の活性化やまちづくりの分野に関心があり、自分自身が成長できる場を探していました。そんな偶然見つけたこのプログラム。情報収集していくうちに自分を成長させてくれそうだと感じました。様々な企画に携わる事が出来る団体を希望し、湘南スタイルで活動することになりました。

相手のことを考えた企画作り

活動をしていく中で大切にしたいことは、参加者や読み手のことを考えること。担当した事業がイベントの企画とウェブメディアの制作だったため、相手の事を考えてつくりたいと伝えたいものが伝わらないし、参加した人を笑顔にすることが出来ない。実践している団体の方々を見ながら、自分の携わった事業の参加者を笑顔にできるように心掛けて取り組みました。その中でも、「とりあえずやってみたら」の一言から始まった(笑)、ワークショップの企画・運営はとても印象に残っています。Facebookやチラシを作って広報をし、ひとつの企画を1からすべて経験しました。結果25人弱の参加者に来ていただき、イベント集客の大変さを学ぶことができました。

参加者を周りの人を変える影響力に

湘南スタイルの活動は、本当にたくさんの人と関わる事ができ、様々な出会いがありました。脱サラして農家を始めた方。70歳を過ぎてもいろんなことに取り組んでいる方。そんな中でも最も印象に残っているのはワークショップ企画の担当をしてくださった清水さんです。考えたことをすぐ実行する行動力。また僕自身がその対象だったのですが、モチベーションを上手に管理して、関わったメンバーを成長させること。言い方は悪いかもしれませんが「転がし方がうまい!」と感じました。「その考えの目的や意図は何なのか」「参加者を参加者で終わらせないこと。周りの人を変える影響力に」。こういった考え方を教えていただいた事はとても貴重な経験になりました。

自分の成長と今後への目標

改めて感じたのは、NPOでのインターンはとても成長できる場だということ。発表や文章作りを通して、自分の苦手と向き合う事が出来たし、アイデア出しや企画を通じて長所も伸ばすことが出来ました。この経験を生かして、やりたい事が2つあります。一つ目は近い目標で、学生と社会人をつなぐ居場所づくりの企画・運営をすること。二つ目は遠い目標で、就農し、コワーキング、シェアハウスなどにも携わり、自給自足をテーマに、人を集めて、生まれ育った地域を盛り上げていくことです。このプログラムで身につけた、「巻き込む力」を発揮して取り組んでいくつもりです。





成果発表会

日時	2017年2月18日（土）14－17時
会場	藤沢商工会館ミナパーク6階多目的ホール1
内容	ワカモノ16名による発表、交流会
発表テーマ	自分たちの活動の成果と受入団体への感謝を伝える・表現する
企画運営	ワカモノ
参加人数	85名（スタッフ含む）



ワカモノ主体で 企画・運営

「活動の成果と受入団体への感謝の気持ちを伝える、表現する」をテーマに、ワカモノ16名がそれぞれ自分たちのインターン経験を発表しました。

成果発表会では、発表だけでなく企画運営もワカモノが行いました。定例会の時間を使いながら「どういう会にしたいか」をみんなで考えるところから始まり、それぞれが14の班に分かれ、協力しながら準備を進めました。自主的に集まって準備したり、自分たちで作成したチラシを配りに出向いたりしました。また、演出にもこだわり、3期生紹介の動画を作成するなど、より良い会にするためにそれぞれが主体的に動きました。

本番では、3期生の「想い」とこたわったりが溢れてた素敵な発表会となりました。

5	4	2 3	1
7	6		
9	8		
12	11	10	
17	16	15	14
21	18	20	19

1. ラジオで成果発表会の告知をした様子／2. 事前の準備中／3. 前日準備とリハーサル／4. 会場までの移動／5. 会場への誘導中／6. ワカモノによる発表／7. ワカモノ一人一人のポスターを会場にて掲示／8. 受付班／9. 司会班／10. 先輩ワカモノの挨拶／11. ワカモノ紹介動画の上映／12. 総監督と副監督／13-14. 来場者からの講評／15. トヨタ財団様からの講評／16. アクションポート横浜様からの発表／17. 修了証書の授与／18-19. 交流会の様子／20. 交流会の様子3／21. ワカモノによるパネルディスカッションの様子



ワカモノ×NPOは面白い！

人との関わり方に
自分らしさが出た。

(大学3年)

物事に対しての考え方や
感じ方が変わった。

(大学3年)

自分の意見を発信できる
ようになった。

(大学4年)

前よりも自分に
自信がついた。

(大学3年)

(高校1年)

明確なビジョンを
描けるようになった。

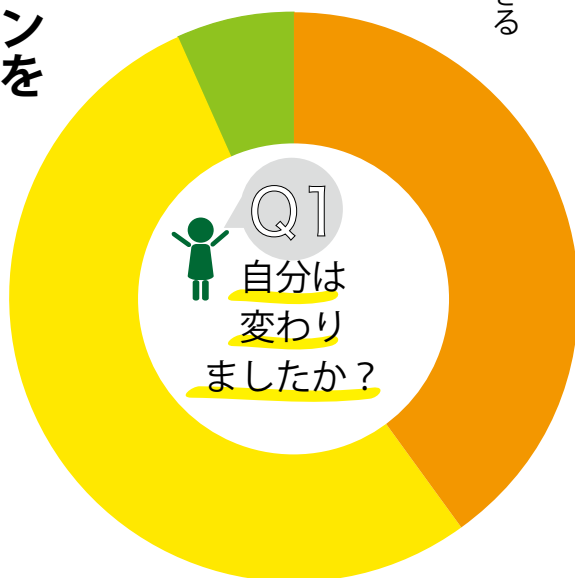
(大学3年)

人に伝えたいことを明確に
するようになりました。

(大学3年)

これまで何も考えずにやって
いたことに気づいた。

(大学2年)



n=14

5 大きく変わった 8 変わった 1 変わっていない

本プログラムに参加したワカモノ16名にアンケートを実施し、15名が回答してくれました。そこから分かったことは、シンプルに「ワカモノ×NPOは面白い」ということ。「ワカモノそれぞれがやりがいを感じ、学び、成長する」ができているから面白い。あなたも一緒にワカモノとして参加しませんか？

国内でもやりがいを持って
国際協力が出る。

(大学3年)

団体の活動
理由や思想に
ついて。

(高校1年)

NPOでインターンする
ワカモノの数。

(大学2年)

地域に熱心な大人がこんなにも多くいるということ。

(大学3年)

シニア世代のパワフルさ。

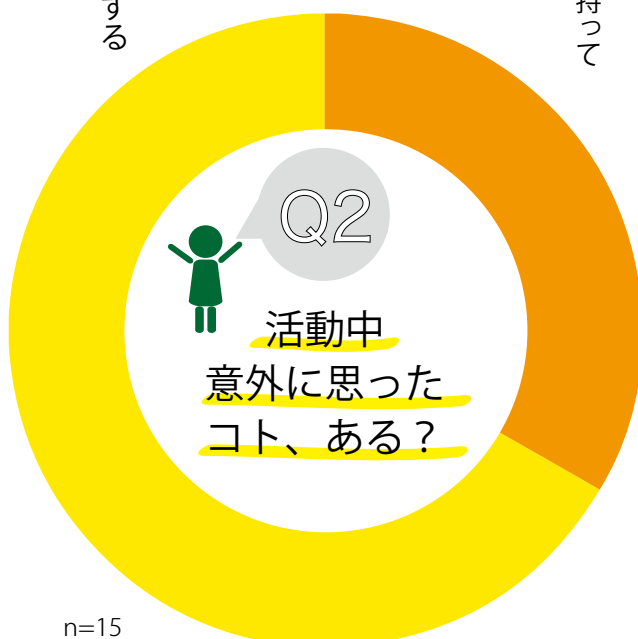
(大学3年)

失敗はしてもいい。

(大学3年)

不得意だったことも、
取り組むうちに面白いと
感じるようになった

(大学2年)



n=15

5 たくさんあった 10 あった 0 なかった

《ワカモノ×NPOのロゴが面白い》



考えて、考えて、考えて…、そして行動する。

(大学2年)

子どもから大人まで多種多様。教える事の難しさを実感。

(高校3年)

団体の方の熱意がうつって楽しく活動できた。

(高校1年)

自分のやりたいことを通して、社会に貢献し、自分を見直すことができる、素晴らしいプログラム。

(高校3年)

クリエイティブな人々と出会って刺激を受けた。

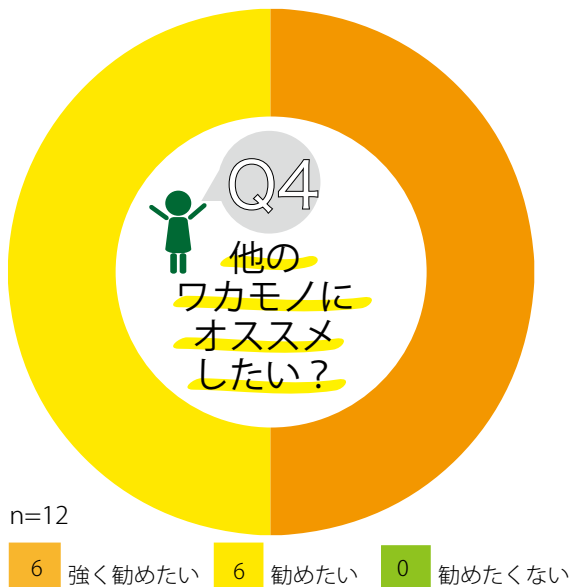
(大学3年)

自分からアクションを起こさなければ、リアクションは無い。

(大学2年)

壁に当たっても、同期のワカモノが支えてくれる。

(大学3年)



《読んでいるアナタへメッセージ》



地域のヤバいくらいキラキラしている人たちと活動したい!という人にピッタリ。

(高校3年)

大学では出来ない経験が出来る。(大学3年)

地域での活動を経験しておくことは、将来、社会人になって繋がるものが必ずある。

(大学1年)

企業インターンと比べて、よりアットホームで、よりコアな環境。

(大学3年)

このプログラムでないと学べなかった事がたくさんある。(大学3年)

やりたいこと・やってみたいことを見つけられるチャンス。(大学2年)

今までやってなかったことに挑戦してみてください。

(大学3年)

目指す自分像を掴んでください!

(大学4年)

受入担当
からみた
ワカモノ

《ワカモノに見られた変化》

Q6



自分の能力や課題に対しての探求心が膨らみました。

(文化)

「目的をもって計画・実行する
ということが大事」だと感じ
てくれた。

(国際)

すっかり自己分析が
できるようになった。

(文化)

担当企画をやり切り、とても頼もしくなった。

(環境)

生き生きと周りの人たちと関り、
魅力が増した。(まちづくり)

コミュニケーションに
自信がついた。(国際)

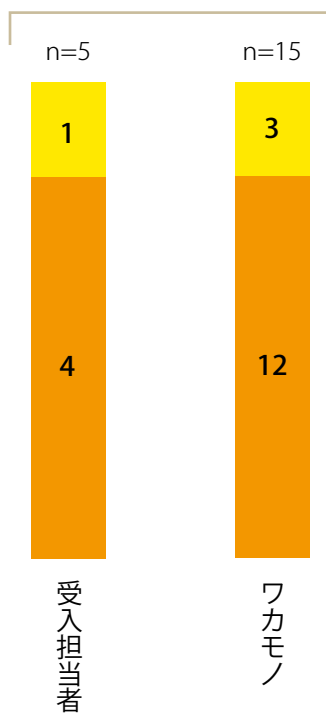
自信を持って作業できるようになりました。

(環境)

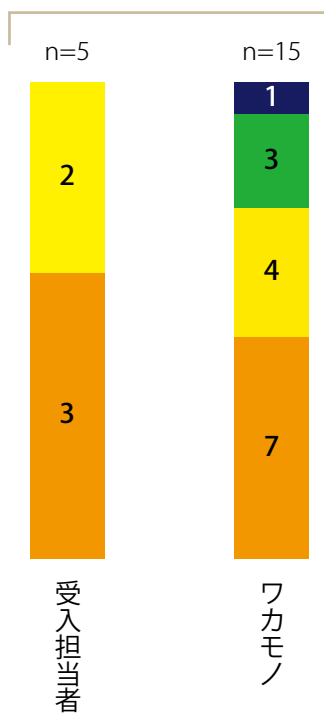
業態や職種ではなく、自分がどんな志をもってまちづくりを
仕事とするか、を体験を持って理解してくれた。

(まちづくり)

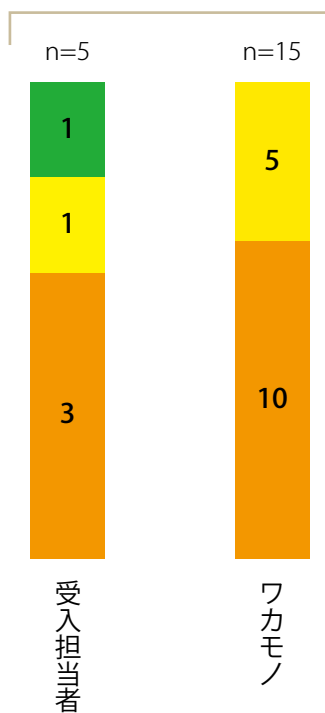
団体の活動内容



団体に取り組む課題



団体が目指す社会



《団体のことについて、ワカモノは
どのくらい理解しましたか?》

Q7



理解していない

あまり理解していない

どちらともいえない

まあ理解した

理解した



ワカモノ×NPOが面白い理由

本プログラムに参加したワカモノは皆、成長があります。毎年、「自信がついた」、「視野が広がった」という回答が多いのが本プログラムの特徴です。今回も同様な結果となりました。

面白い理由1 自信がもてる

自信がつく理由として、半年間かけて責任をもって市民団体の活動に携わっていることが挙げられます。成果発表会では、自分たちで企画・実施したイベントの紹介や、広報のために作成したビデオの上映など、発表して頂きました。これまで学校では体験したことのない、実社会の中で「やり遂げた」体験によって、ワカモノが自信がついたと感じると考えられます。

一方で、ワカモノを受け入れている団体側にとっては、とても大切にしている点でもあります。今期の受入担当者が集まる「座談会」では、意見交換したいと一番に挙げられたテーマが「やり遂げることをどこまで重視するか」でした。ワカモノの「やり遂げる・自信がつく」を配慮した受入づくりを行っています。

面白い理由2 視野が広がる

視野が広がる理由は、活動で出会える人の良さが挙げられます。受入団体や地域には「ヤバいくらいキラキラしている人たち」や「クリエイティブな人々」がたくさんいらっしゃいます。そんな熱心な方々と交流する中で、新しいやり方や考え方を学び、視野を広げているものと考えられます。将来の目標となる方と出会うワカモノも少なくありませんでした。

また、ワカモノ同士の出会いも重要です。ワカモノと地域との関係性が遠い現代社会において、地域で活躍したいと考えているワカモノが集まるコミュニティは少数です。定例会に参加する目的として「一番多かった意見が「他のワカモノとつながりづくり」でした。比較的近い問題意識や考え方を持ったワカモノ同士が集まり交流することが、お互いの刺激や支え合いになっています。

ワカモノ×NPOインターンシッププログラムでは、ワカモノが成長する楽しくて、面白い場を用意しています。気になった方は、是非参加してみてくださいね。お待ちしております！



受入団体の紹介

2016年度は、事務局を含め、13の団体にワカモノを受け入れていただきました。ここではワカモノを受け入れてくださった団体が大事にしていることや活動内容をご紹介します。受入担当者の皆さんのお顔から充実した雰囲気が感じ取れたなら、それはきっと参加したワカモノのおかげかもしれません。

※掲載している団体情報は2016年度エントリー時のものです。

-  **文化：**地域文化の保全、スポーツイベントの補助など
-  **環境：**里山保全、リサイクル活動、街の美化活動など
-  **子ども：**レクリエーション、保育、学習サポートなど
-  **まちづくり：**街の清掃活動、地域活性イベントなど
-  **国際：**国際協力、留学生・外国籍の方への支援、日本語教室など



昔の遊びを伝える会

平成の子どもたちに昭和の遊びを伝えたい

メンバーが、今の子どもたちに昔の遊びを継承していく活動をしています。こま、けんだま、ベーゴマ、おりがみ、おてだま、あやとりなど、イベントを通してたくさんの昔の遊びを子どもたちに伝えています。



認定NPO法人
ADRA Japan

人間としての尊厳の回復と維持を目指して

途上国や災害被災地において開発支援や緊急支援活動を行なう国際NGO。世界約120か国の支部と連携しています。人種・宗教・政治の区別なく、自然災害や紛争の被災者、医療を必要としている人々、教育を受けられない女性や子どもたちなどに、自立を助ける支援や緊急支援を行っています。



NPO法人
湘南市メディア
ネットワーク

映像・メディアを通して人と人、人と地域をつなぐ

地域に根差した映像コンテンツ制作、青少年育成等の事業に取り組んでいます。映像制作の授業やワークショップ、市民向けの映画の上映会やNPO映像祭の開催をしています。その他、ひきこもり・貧困家庭支援サイトの運営等も行っています。



NPO法人
湘南スタイル

「食と農」によるコミュニティ経済社会を実現させたい

地域資源を活用したコミュニティビジネスを展開しています。市民・産業・行政をつなぎ地域活性、産業振興を図ること。行政との協働によるポータルサイトの運営等を行っています。



認定 NPO 法人
地球市民 A C T
かながわ / T P A K

与えるのではなく、立ち上げる力を子ども達に

アジアの途上地域の子子ども達が一でも多く教育を受け、幸せで明るい未来を自ら切り開けるよう、1993 年よりタイ、ミャンマー、インドにおいて少数民族の子子どもと女性への自立のための支援活動を行っています。日本国内においては、思いやりある人材の育成を行っています。



NPO 法人
まちづくりスポット
茅ヶ崎

住み続けた人も、住み始める人も、共に未来を描く

50 年続く団地の建替を背景に移り変わる茅ヶ崎市南西部を拠点にしています。地域や世代をつなぐための交流の機会の提供、住民の自発的な活動の支援、豊かな環境と景観の形成、持続可能なコミュニティづくりの推進を展開しています。



NPO 法人
湘南遺産プロジェクト

湘南の魅力を未来まで残していきたい

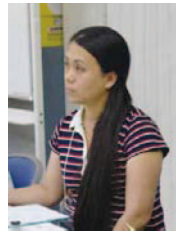
湘南地域において、その歴史や文化を物語る「モノ」や「コト」の中から、ぜひ未来に残していきたい地域のタカラを、皆で探し、見つけて、選び、守り、育てていく活動をしています。湘南の未来につながるブランディング事業を目指して取り組んでいきます。



認定 NPO 法人
WE21 ジャパン

「世界とのつながり」を考え・行動する人を地域にひろげる

36 の地域 NPO と連携し、市民からの寄付品を販売するチャリティショップ 55 店舗を拠点に、資源の循環する社会づくりとアジア・アフリカ・東日本への民際協力を進める中間支援組織です。



NPO 法人
ハーモニーインター
ナショナル

自分を尊重できる国際人を育てます！

多文化意識・英語・リビングバリュー（ユネスコ推薦道徳教育）を 3 本柱とし、様々なプログラムやイベントを通し提供しています。0 歳から大人までが参加し、当会ならではの体験のできるスクールも開催しています。



認定 NPO 法人
ゆい

浜辺の豊かな緑を復元したい

湘南海岸は、半世紀ほど前は海浜植物の豊かな浜辺でした。自生種の高浜植物を育て、浜辺の豊かなみどりを復元する活動を市民とともに続けています。湘南ゆかりのハマボウフウを地域おこしと組み合わせたいと思っています。



NPO 法人
湘南 DV サポート
センター

暴力のない社会を目指して

「いじめ」や「デート DV」など若者たちの間で起こる暴力を小中学校で実施するいじめ防止プログラムや、高校・大学で実施するデート DV 防止プログラムを実施しています。来年度のユースリーダー養成講座の企画・運営をしてくれる方も募集しています。



認定 NPO 法人
藤沢市市民活動
推進連絡会

「つなぐ・支える・うごく」NPO を支援する NPO

市民活動団体等への活動支援事業を通し、市民活動の推進とまちづくりに寄与することを目的に活動しています。まちの活性化のために、NPO や行政、企業など他セクターとの連携をとりながら、より効果の高い公益事業を展開する団体の支援と関連事業を行っています。



藤沢市民まつり
実行委員会

地球と暮らす・私たちにできること

今年で 43 回目となる藤沢市で開催されている最も大きなイベント。「藤沢市民まつり」の企画・運営をする団体です。商工会議所、商店街連合会、藤沢市、NPO、市内 4 大学の学生と、様々なメンバーが主体となり活動をしています。

活動報告書に寄せて

トヨタ財団では、NPO人材のすそ野を広げることとを目的として、2014年度より3年間、藤沢市民活動推進連絡会様（以下、連絡会様）の「地域でつながるワカモノ×NPOインターンシッププログラム」への助成をさせていただいております。

1 2つの驚き

私は、中間報告会や成果報告会で、ワカモノの皆様のご発表を見せて頂くことがとても楽しみで毎年伺っているのですが、年々その内容がグレードアップしていることに驚いています。これは、1期生、2期生のOB・OGが学生サポートメンバーとしてこの活動に関わり続けていただき、良き先輩として後輩のワカモノに経験を伝えたり、適切なアドバイスをさせていただいた賜物と思います。

もう一つの驚きは、ワカモノの中に高校生（2期生には、なんと浪人生も！）までいらっしゃるということです。私どもが当初このプログラムを連絡会様の方へ持ち込んで、トライアル的にやりたいとご相談させていただいた時点では、高校生の参加までは想定していませんでした。と言うのも、親御さんからクレームが出るのではないかと心配したからです。ところが、毎年高校生の参加があり、3期生では3名もの高校生が参加してくださいました。中の1名に至っては、成果報告会での司役まで、当意即妙の見事な

アドリブを交えながら、見事にやっていたいただきました。ワカモノパワー、恐るべしです。

2 ワカモノへの期待

私が書くのも妙な話ですが、「本当に良いプログラムに助成させていただいているなあ」と思います。ワカモノの皆さんは異口同音に「自分に自信が持てた」、「積極的になれた」とおっしゃっています。これも、受入団体の皆様が、決してお客様としてではなく、一人の大人としてワカモノを受け入れていただき、ちゃんとした仕事を与え、しっかりとご指導いただいた結果だと思っています。ワカモノの皆さんには、受入団体に対する感謝の気持ちを忘れることなく、この先もずっと、NPOに対するシンパシーを持ち続けていただきたい、そして将来可能な時には、受入団体に限らず、NPOに対する貢献（ボランティアでも寄付でも）をしてくださることを期待しています。

3 プログラムの横展

なお、連絡会様より、この3年間のノウハウをまとめ、他地域での展開を図る取組みのご提案を既になさっております。私どももいたしまして、この取組みを全国へ広げることが当初からの願いでもあり、何とか実現したいと考えておりますので、引き続きのご協力をお願いいたします。

公益財団法人
トヨタ財団
事務局長

おおの みつる
大野 満

1958年岐阜県生。大阪大学法学部卒。
1980年トヨタ自動車工業（現トヨタ自動車）入社。国内営業部門、法務部、環境部、総合企画部CSR室長を経て、2013年より財団事務局長。信条は、社会課題の解決を目指して取り組んでいる方々のサポーターであり続けること。



NPOとワカモノの インターンシップ事業に向けて

東日本大震災が発災した年の暮れに一本の電話がありました。被災地では20歳代から40歳代の青年たち（以下、若者）が必死の思いで復興に向け動き出している。法人格を持たない団体も持つ団体も手探りで頑張っている。そんな彼らに非営利組織として継続した動きができるよう経営や運営のサポートを一緒にしましょうというお誘いの電話でした。還暦をまもなく迎える時期でしたので、大きなプロジェクトに参加できるのは最後かという思いと、10年余りかわつてきたNPOマネジメントの総まとめというイメージで、迷わず参加をしました。そこで出会った若者の輝く目はなにもにも代えがたく、改めて日本はきつと立ち上がれると感じました。彼らに社会を委ねたい。その時、本気で決めました。

神奈川に戻り、通常業務に就きましたが、若者と市民活動のかかわりは、東北地方に比べ薄いように感じています。その後、学生のNPOにおけるインターンシップ事業の企画を立てることになり、とてもワクワクした気持ちで昨日のように思い出されます。

当時、インターンシップといえば、将来の職業に向け、就職活動の一環として、大学では盛んに薦めていました。そこで得られるものとして、会社人としてのマナー取得やより実践的な仕事の醍醐味を味わえることといわれます。勿論受け入れ企業側のメリットもそれなりにあるでしょう。

では、被災地となった東北の若者はなぜ、あのよう

に主体的に動くことができたのでしょうか。すべてが崩れ去った時、残るのは組織に守られた会社人ではなく地域を構成する社会人だったのです。彼らは、自ら地域を再生するために、社会人として動きをつくっていきました。果たして神奈川の若者は災害が発生した時、立ち上がることはできるのでしょうか。

自ら課題解決しようとおもうこと、それこそが社会人として今後身に着けるべきマナーであり、生き抜く力を育む大きな学びになると考えました。幸いにも、神奈川県内では、自ら社会的な課題を解決しようと多くの市民活動団体やボランティア団体が活動しています。そこで、学生による市民活動団体やボランティア団体におけるインターンシップ事業を計画しました。実施にあたり、多くの市民活動団体やボランティア活動団体の皆様にご協力を仰ぎ、快くご協力いただけたことに深く感謝いたします。

3年間の事業を振り返り、当初想定した成果や効果は出たのでしょうか。本報告書はその集大成として作成しました。参加したワカモノの未来に向けた新しい動きも見つけることができるでしょう。

今後は、インターンシップ事業の実施にとどまらず、社会を支える仕組みとして、他地域に広げるための作業をしてまいります。引き続きトヨタ財団様をはじめ、多くの関係者の皆様とともに進める所存です。どうぞよろしく願いたします。



認定 NPO 法人
藤沢市市民活動推進連絡会
副理事長・事務局長

てづか あけみ
手塚 明美

1998 年 NPO 法の制定をきっかけに、NPO 支援の在り方を柱に、情報収集と発信を進め、NPO を中心とした非営利組織のマネジメント支援、ソーシャルビジネスの起業支援、NPO と他セクターとの連携支援に取り組んでいる。

先輩ワカモノのその後

ワカモノとして参加し、次のステップへと進んでいる先輩ワカモノにインタビューをしました！
インターンの活動で得た学びや経験をもとに活躍する2人のストーリーをご覧ください。

やりたいこととビジョンができた！

大学1年生の時、母からの勧めでこのプログラムを知り、説明を聞きに行きました。プログラムのことを説明してくれた方は、私にとってはじめての社会人で、色々なお話を伺って衝撃を受けたことを覚えています。はじめはNPOのこともよく分からず、ただ「何か変わるかもしれない」と思い、参加することを決意しました。インターン先では、東北を訪問してたくさんの方から話を聞いたり、藤沢を中心に行われるイベントの出店内容を企画から考えたり、藤沢からできる復興応援について考えました。当時の私は周りの人と比べて焦っていました。しかし、同じインターン先の中村さんと受入担当者の方をはじめ、「(良い意味で)道を外した人」にたくさん出会えたことにより、気持ちが楽になりました。また、インターンを通じての一番の変化は夢と、夢を叶えるためのビジョンができたことです。

夢はNGOスタッフとして働くことです。そのためにプログラム終了後直後にカナダとニュージーランドに留学に行き、日本財団へ1年間、インターン生として参加しました。今後も自分の将来ビジョンに添ってパワフルに活動していきます。ここまで叩き上げていただいた受入担当者の方に感謝しています！



とりうみ かな
鳥海 花菜

インターン1期生。認定NPO法人藤沢市民活動推進連絡会にてインターンを経験。
インターン活動を通じて生まれた夢に向かって、日本財団へのインターンやカナダとニュージーランドへ留学に行く。



みやした しおり
宮下 栞

インターン2期生。神奈川大学2年生。NPO法人まちづくりスポット茅ヶ崎でインターンを経験。インターンでの経験をもとに、現在学校で行われている「みかんの楽校」の活動に積極的に参加している。

「まちづくり」に関わり、地元がすきになった。

私は大学進学のために地元の山梨を出て、神奈川で一人暮らしを始めました。地元を離れてから初めて、地元とのつながりがないことに気づき不安になりました。そんな時、大学の先生がきっかけで「まちづくりってなんだろう?」という疑問が生まれ、興味を持ったので、このプログラムでまちづくりに関係する団体で活動することを決めました。私の活動先は茅ヶ崎を拠点に活動する団体で、茅ヶ崎で活動する方々やイベントに参加された方から話を聞く機会が沢山ありました。

インターンの活動や、その後学校の先生に誘われて参加している「みかんの楽校」の活動を通して、「まちを作るものは1つじゃない」ことに気づきました。例えば農業1つをとっても色々な見方があり、自分の考えになかった人が沢山いることを知りました。まちに愛着を持って活動する人達に触れて、「自分の地元はどうなのだろう?」と考えるようになりました。

3年生になったら「みかんの楽校」で、もっと自分から考えて行動できるようにになりたい、と今は思っています。また、将来は地元に戻って働きたいので、地元でできることを探していきたいです。

事務局より

- ・3年間またこれからこのプログラムに関わってくださる方々へ、感謝の気持ちを込めて、本書がプレゼント代わりになれば幸いです。(桜井 光)
- ・本当の物語の始まりはここから。「16人のストーリー」の続きを見てみたいと思いませんか？本事業に関わる全ての皆様に感謝して。(東樹 康雅)
- ・教科書に載るような人物がこの卒業生から登場するのでは？と期待しています。そんなワカモノと関わりを持ってハッピーです。(須永 洋平)
- ・志の高いワカモノ達と、熱い想いを持った NPO 団体との素敵な化学反応がありました。あなたもその化学反応の一員に混ざりませんか？(永山 愛)
- ・NPO インターンは5年10年後や就活のような進路選択の際に役立つ“活きる経験”が得られます。・・・と3年目の僕は信じています。(門倉 啓介)
- ・高校生メンバーの成長に無限の可能性を感じた半年間。もっと多くの高校生に広まりますように！(小山 優子)
- ・このプログラムに興味を持ったそこのあなた。僕はそんなあなたに会いたいです。さあ！レッツ社会貢献。(尾上 太一)
- ・自分自身の得意とも不得意とも、とことん向き合えます！360度に生まれる目標と繋がりとともに、インターンを楽しんでみませんか？(簗田 萌)

協力者一覧

助成： 公益財団法人 トヨタ財団

参加団体： 昔の遊びを伝える会
NPO 法人 湘南スタイル
NPO 法人 湘南市民メディアネットワーク
認定 NPO 法人 ADRA Japan
NPO 法人 湘南遺産プロジェクト
NPO 法人 まちづくりスポット茅ヶ崎
認定 NPO 法人 地球市民 ACT かながわ／TPAK
認定 NPO 法人 ゆい
NPO 法人 ハーモニーインターナショナル
認定 NPO 法人 WE21 ジャパン
藤沢市民まつり実行委員会
認定 NPO 法人 藤沢市市民活動推進連絡会
NPO 法人 湘南 DV サポートセンター

協力： NPO 法人 アクションポート横浜
NPO 法人 市民農園を拡げる会

広報協力： 神奈川大学 山岡義卓先生／神奈川大学 湯川恵子先生／東海大学 藤巻裕之先生／湘南学園中学校・高等学校 吉川謙太郎先生／鎌倉高等学校 大坪直子先生

地域でつながるワカモノ × NPO インターンシッププログラム 2016 活動報告書

ワカモノ。

発行： 2017 年 4 月

編集責任： 認定 NPO 法人 藤沢市市民活動推進連絡会
副理事長・事務局長 手塚明美

事業担当： 桜井光／東樹康雅／須永洋平／永山愛

制作協力： 門倉啓介／小山優子／尾上太一／簗田萌／青木亮平／池田実穂／金田麻沙子

印刷： 株式会社 プリントバック

発行所： 認定 NPO 法人 藤沢市市民活動推進連絡会
〒251-0052 神奈川県藤沢市藤沢 577 寿ビル 301 号室
電話・FAX：0466-53-7366
ホームページ：http://f-npon.jp/
メール：npoi@gf-npon.jp (事業専用)

本書の一部あるいは全部について、無断で転載・複製することを禁じます。
商業目的による本書情報の利用を禁じます。



WAKAMONO×NPO
INTERNSHIP PROGRAM